※令和８年度以降入学生用

学校番号	2001

令和８年度　国語科

教科	国語	科目	論理国語	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	「探求　論理国語」（桐原書店）						
副教材等	「入試頻出漢字＋現代文重要語彙ＴＯＰ２５００」（いいずな書店） 「プレミアムカラー国語便覧」（数研出版） 「即戦ゼミ入試頻出新国語問題総演習四訂版」（桐原書店） 「改訂版　新　共通テスト対策　決戦国語完答４０」（尚文出版） 「共通テスト　国語過去問題総合版令和３～７年」（尚文出版） 「新演習現代文アチーブ３　四訂版」（桐原書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・様々な評論文に触れることで読解力を向上させるとともに、批判的に読み進めていくことで、多角的なものの見方ができるようにする。
・「書くこと」の活動を通して、自分の意見を論理的に表現する力を身に付ける。
・副教材等も効果的に用いて、主に知識と思考力を定着させる。
・板書内容だけでなく、自身で気付いたことや要点なども記録し、主体的に授業に参加する。

2　学習の到達目標

・多様な見方、考え方、感じ方に触れ、物事を総合的に捉えることのできる、深い人間性、豊かな感性と判断力を養う。
・主体的に学び、考える意欲を持つことで、国語力の伸長を通し、生きる力を養う。
・総合的な言語事項を学習し、全般的な国語の知識を深めることで、日本語に対する関心を高め、国際社会に通ずる国語力を獲得する。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a　知識・技能	b　思考・判断・表現	c　主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力も養う。そして、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯に渡って読書に親しみ、自己を向上させる。そして、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

※令和８年度以降入学生用

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元の学習内容	単元の評価規準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
一学期	芸術と向き合う 日本文化・演劇 ［教材］ 「言葉の〈意味〉と〈表徴〉」 （中村雄二郎）	a：文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 b［ 書 ］：主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。 c：進んで文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深め、学習課題に沿って、資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈し、様々な資料を調べて発表したり話し合ったりしようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 課題	課題
	現代社会のひずみ 情報・現代 ［教材］ 「ポストモダンと排除社会」 （東浩紀）	a：言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。 b［ 書 ］：情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠を揃えている。 c：進んで言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする言葉の働きを理解し、学習の見通し持ち、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にし、自分の考えをまとめようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 課題	課題
	現代社会のひずみ 文化・観光 ［教材］ 「ファンタジー・ワールドの誕生」 （今福龍太）	a：文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 b［ 読 ］：主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。 c：進んで文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深め、学習課題に沿って、資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈し、様々な資料を調べて発表したり話し合ったりしようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 課題	課題
	未来を描く 共同体・対話 ［教材］ 真理の探求と民主主義 （河野哲也）	a：文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 b［ 書 ］：多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。 c：進んで文章の構成や展開の仕方について理解を深め、学習課題の見通しを持ち、様々な観点から情報を収集して適切な題材を決め、調べたことを整理し、自分の考えを発表しようとしている。	定期考査 小テスト	課題	課題

※令和８年度以降入学生用

二学期	都市に生きる人々 身体・都市 ［教材］ 「身体と出現」 （平野啓一郎） ［参考］ 「変身」 （カフカ）	a：文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 b［ 読 ］：文章の構成や論理の展開について、書き手の意図との関係において多角的な視点から評価している。 c：進んで文章の構成や展開の仕方について理解を深め、学習課題に沿って、論理の展開や表現の仕方について多面的・多角的な視点から評価し、文章の内容を基に自分の考えを論述したり、討論したりしようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 課題	課題
	未来を描く 社会・世界 ［教材］ 「地図の想像力」 （若林幹夫）	a：文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 b［ 読 ］：人間、社会などについて、文章の内容を異なる価値観と結び付けて新たな観点から考えを深めている。 c：自ら文章の構成や展開の仕方について理解を深め、学習課題に沿って、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付け、自分の考えを論述しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 課題	課題
	実社会 実社会との接点 ［教材］ 「複雑化する人工物」 （齊藤了文）	a：論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにしている。 b［ 書 ］：実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めている。 c：自ら論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増やし、自分の考えを論述しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 課題	課題
	近代を見つめる ［教材］ 「日本文化私観」 （坂口安吾）	a：文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 b［ 書 ］：情報の妥当性を吟味しながら自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠を揃えている。 c：自ら文章の構成や展開の仕方について理解を深め、学習の見通しをもって、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら自分の立場や論点を明確にし、自分の考えをまとめて批評し合おうとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 課題	課題
	近代を見つめる ［教材］ 「侏儒の言葉」 （芥川龍之介）	a：文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 b［ 書 ］：文章内容の妥当性を吟味しながら自分の立場や論点を明確にし、主張を支える適切な根拠を揃えている。 c：進んで文章の構成や展開の仕方について理解を深め、学習の見通しを持ち、情報の妥当性を吟味しながら自分の立場や論点を明確にし、自分の考えをまとめて批評し合おうとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 課題	課題

※令和８年度以降入学生用

三学期	都市に生きる人間 近代･家族 ［教材］ 「市民社会化する家族」 （今村仁司）	a:論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 b[　書　]:実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めている。 c:進んで論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増やし、学習の見通しを持ち、様々な観点から情報を収集して適切な題材を決め、自分の考えを論述しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 課題	課題
	人間の想像力 生物･認識 ［教材］ 「人間の領域」 （日高敏隆）	a:文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 b[　読　]:文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。 c:進んで文章の構成や展開の仕方について理解を深め、学習課題に沿って、論理の展開や表現の仕方について多面的・多角的な視点から評価し、文章の内容を基に自分の考えを論述したり、討論したりしようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査 課題	課題

※表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

※単元の評価規準[ｂ]について…括弧内には[　話／聞、書、読　]のどれか一つを記入して下さい。

※年間の各領域時間数

・話すこと／聞くこと　…　（　――　）時間

・書くこと　…　（　３８　）時間

・読むこと　…　（　６０　）時間